

令和3年度 校長より ⑫

3月9日(水)に、第37回卒業式が行われました。3年前の入学式では、真新しい制服に身を包まれていたと思いますが、中には少しくたびれかけた様子も見られる制服を着こなして入場する姿からは、自信と誇りを感じることができました。コロナの影響により、保護者の方々には式場内での御臨席はいただけませんでしたが、同時映像配信により、ご自宅や各教室内でご覧いただくことができました。

式では、私から卒業生に対して、2つの願いをお伝えさせていただきました。1つ目は、「どんな困難にも挫けず、未来を切り開き、世界を平和に導ける人になってほしい」、ということ、2つ目は、「常に『感謝の念』を持ち、自分の人生を豊かなものにしてほしい」、ということについてです。

コロナの経験や、今の国際情勢、急激な科学技術の発展など、様々な難題がある中、困難にくじけることなく、正面から取り組み、未来を切り開き、世界を平和に、そして自分を幸せに導いてほしい、また、「感謝の念」さえあれば、どんな辛い経験があっても自分をポジティブな気持ちにさせ、自分の可能性を追求できるようになる。だから、感謝の気持ちを常に持って自分を幸せにしてほしい、とのお話をさせていただきました。

卒業生の皆さんは、3年間の高校生活で身も心も大いに成長することができたと思います。出会った友を一生大切に、高校時代を自分の人生の礎として、しっかりと生きてほしいと思います。卒業生の保護者の皆様におかれては、これまで、本校の教育活動に深いご理解とご支援を頂戴しましたことに、厚くお礼申し上げます。有難うございました。

3月25日(金)には、令和3年度の修了式が行われました。私からは、一年間の振り返りと、本校が神奈川県教育委員会より、「かながわ部活ドリーム大賞」の準グランプリ賞として表彰されたこととお話し、生徒の皆さんが模範となって部活動に取り組んでくれたことについて、称えさせていただきました。この賞は、部活動に取り組んでいる生徒に対するものではありませんが、入部していない生徒たちも、日頃から部活動の取組を支えたり、部活動に取り組む生徒たちを応援したりしています。そうした意味では、この賞は本校の全ての生徒に対して捧げられたものであると思っています。

部活動のみならず、生徒の皆さんの志と行動が、本校の伝統を築いてくれています。今後とも高校生として他の模範となる姿で取り組んでください。よろしくお願いいたします。

本日まで、生徒、保護者、卒業生、地域の方々のおかげで、令和3年度の本校の教育活動を無事終了することができました。令和4年度もコロナをはじめ、様々な事が起こると思いますが、どんな困難にも負けることなく、生徒、教職員一丸となって教育活動に邁進してまいります。引き続き、ご支援ご協力をよろしくお願いいたします。

令和4年3月

神奈川県立大船高等学校 校長 幸田 隆